

Assembly Manual Imperialstar

組み立て説明書

Manual de ensamblaje de Imperialstar



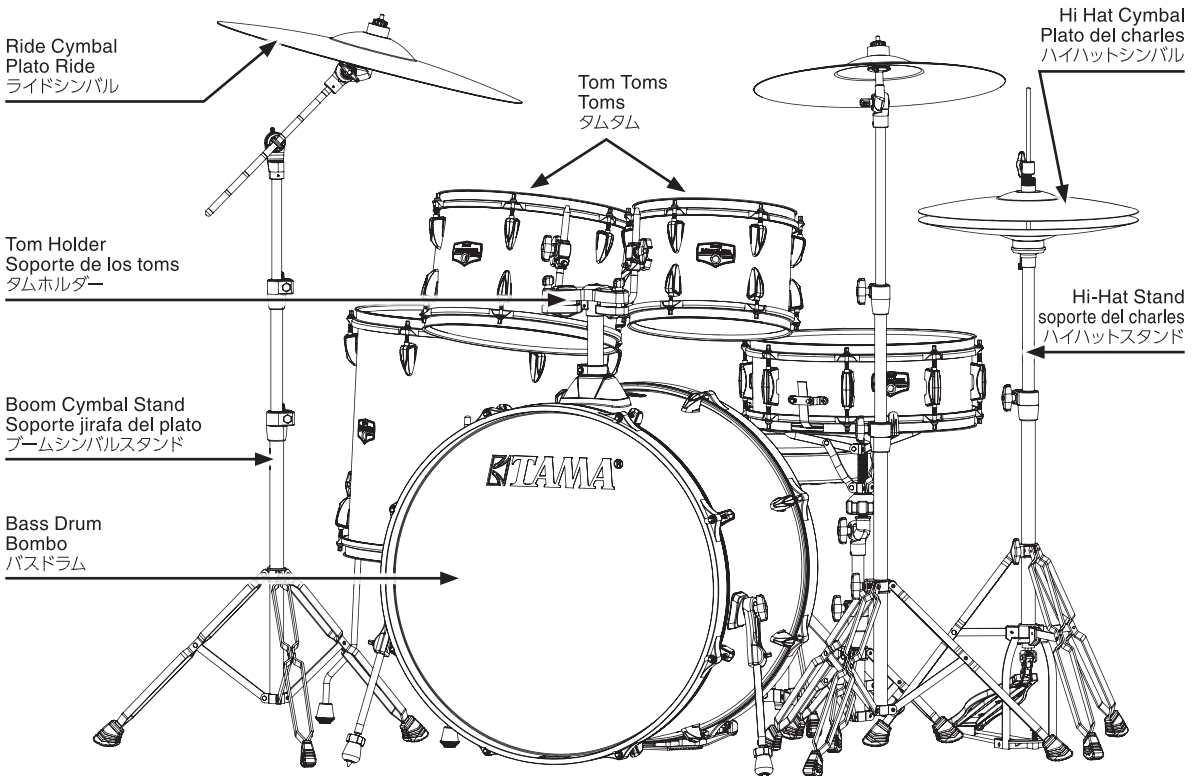
For more information about this drum set up, please check the instructional video from the link below or via the QR code.
<http://www.tama.com/instructionvideo>

ENGLISH

1. Assembling the Bass Drum	5
2. Assembling and Adjusting the Drum Pedal.....	7
3. Setting Up the Drum Throne	8
4. Setting Up the Snare Stand and Snare	8
5. Setting Up the Tom Holder and Tom Toms	9
6. Assembling and Setting Up the Floor Tom	9
7. Assembling and Adjusting the Hi-Hat Stand	10
8. Assembling the Cymbal Stand	11
9. Adjusting the position of the Drum Set and Stands	11

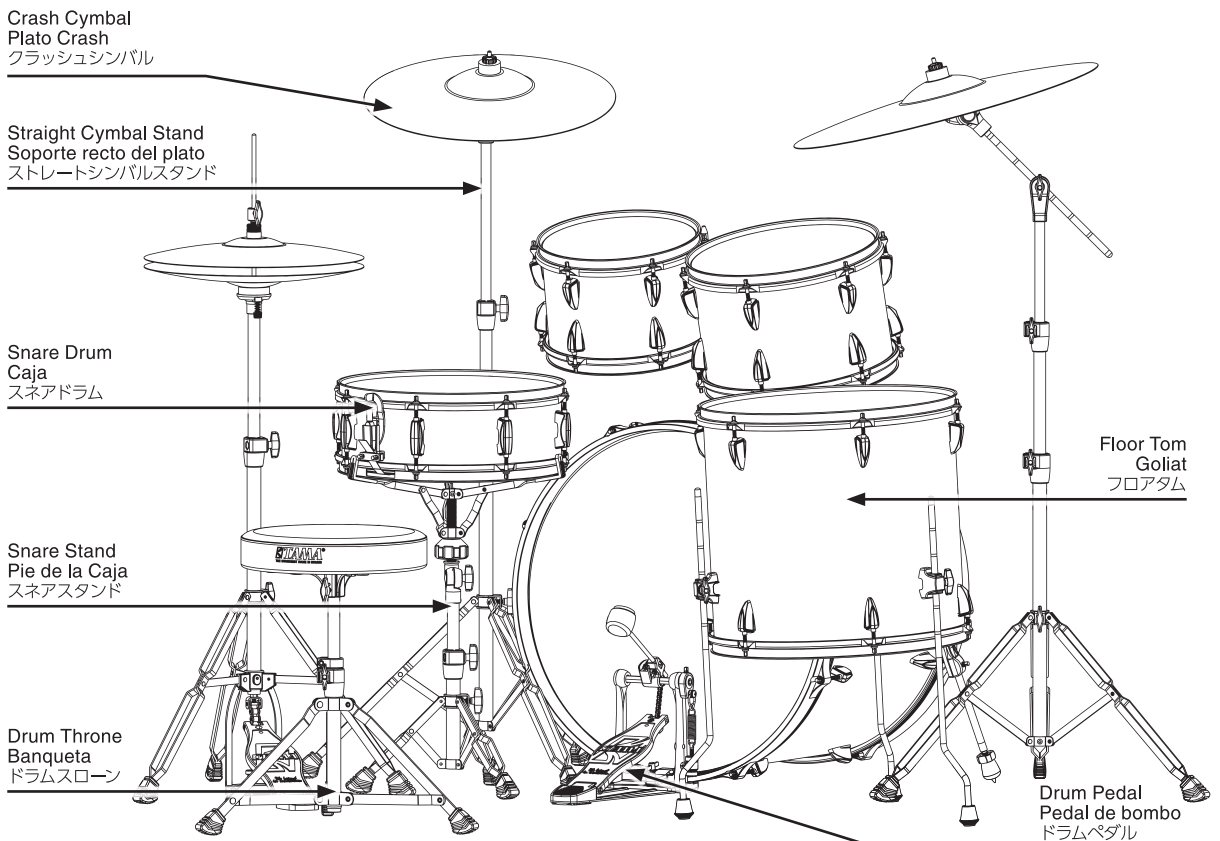
日本語

1. バスドラムの組み立て	13
2. ドラムペダルの組み立てと調整	15
3. ドラムスローンのセッティング	16
4. スネアスタンドとスネアのセッティング	16
5. タムホルダー、タムタムのセッティング	17
6. フロアタムの組み立てとセッティング	17
7. ハイハットスタンドの組み立てと調整	18
8. シンバルスタンドの組み立て	19
9. ドラムセットとスタンドの位置調整	19



ESPAÑOL

1. Ensamblaje del bombo	21
2. Ensamblaje y ajuste del pedal del bombo	23
3. Instalación del banquete	24
4. Instalación del pie de la caja y la caja	24
5. Instalación del soporte de los toms y los toms	25
6. Ensamblaje e instalación del goliat	25
7. Ensamblaje y ajuste del soporte del charles	26
8. Ensamblaje del soporte del plato	27
9. Ajuste de la posición de la batería	27



この度はTAMA Imperialstarをお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

組み立てる前にこの説明書をよく読んで、正しくお使いください。

お読みになった後も大切に保管して、必要に応じてご覧ください。

【梱包明細】

18" バスドラム 5点キット		個数
バスドラム	シェル本体	1
	ヘッド	2
	アキュチューンフープ	2
	テンションボルト (80mm)	13
	脚棒	2
フロアタム	シェル本体	1
	ヘッド	2
	フープ	2
	テンションボルト (42mm)	13
	脚棒	3
タムタム (大)		1
タムタム (小)		1
スネアドラム		1
タムホルダー		1
チューニングキー・マニュアル		1
ハードウェア		個数
ブームシンバルスタンド		1
ストレートシンバルスタンド		1
スネアスタンド		1
ハイハットスタンド		1
ドラムペダル		1
ドラムスローン		1
シンバル		個数
ハイハットシンバル		2
クラッシュシンバル		1
ライドシンバル		1

22" バスドラム 5点キット		個数
バスドラム	シェル本体	1
	ヘッド	2
	アキュチューンフープ	2
	テンションボルト (80mm)	17
	脚棒	2
フロアタム	シェル本体	1
	ヘッド	2
	フープ	2
	テンションボルト (42mm)	13
	脚棒	3
タムタム (大)		1
タムタム (小)		1
スネアドラム		1
タムホルダー		1
チューニングキー・マニュアル		1
ハードウェア		個数
ブームシンバルスタンド		1
ストレートシンバルスタンド		1
スネアスタンド		1
ハイハットスタンド		1
ドラムペダル		1
ドラムスローン		1
シンバル		個数
ハイハットシンバル		2
クラッシュシンバル		1
ライドシンバル		1

※ セット内容によってはシンバルが付属しないモデルもございます。

1. バスドラムの組み立て

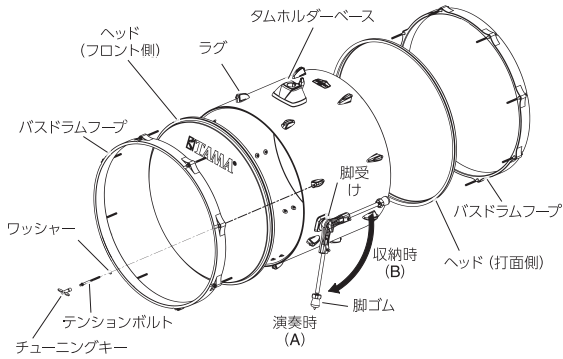


図1-1A

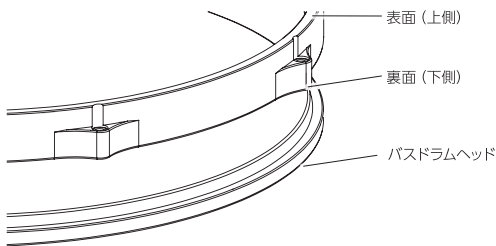


図1-1B

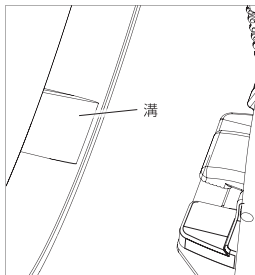


図1-1C

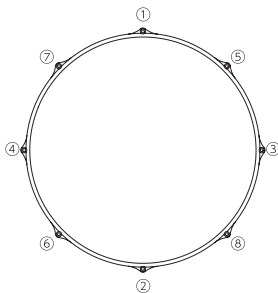


図1-1D

1-1 ヘッド、フープの取り付け

アキュチューン・フープは、バスドラムフックを必要とせず、タムタム用フープと同様の感覚でお使いいただける、TAMAオリジナルの樹脂製バスドラム用フープです。最初は打面ヘッドから、**図1-1A**に示すとおり、ヘッド、フープの順にシェルにのせて、テンションボルトにワッシャーを通してからフープ外周上に設けられた穴に通してヘッドを取り付けます。

なお、アキュチューン・フープには表裏がありますので、ご注意ください。

図1-1Bに示すとおり、下側にヘッドがくるように取り付けます。

また、アキュチューン・フープにはドラムペダルを正確な位置に取り付け易くするために平らになっている溝が設けられています。この部分にはステッカーが貼られていますので、ペダルを取り付ける打面側のヘッドを張る際には、この溝がバスドラムの下側になるようにしてください。**(図1-1C)**

注意

- *ヘッドを張る際には、一箇所だけを強く締めないでください。最初はチューニングキーを使わず、指で締められる程度に各ボルトを締め、そのあとチューニングキーを使って**図1-1D**のように対角線の順に少しずつ均等に締めるとうまくいきます。
- *必要に応じてフロント側のヘッドに穴をあけてください。アタックの効いた抜けの良い音が得られます。また空気の逃げ道が出来ることでピーターの跳ね返りが抑えられる効果もあります。一般的には、中心から離れたところに13~15センチ(5~6インチ)径程度の穴があげられます。
- *さらに、バスドラムの内部に毛布や布を入れてミュートすると、バスドラムらしい、サスティーンが短く、太く締まったサウンドになります。

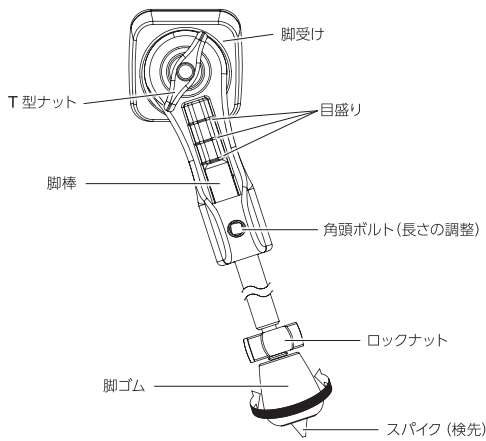


図1-2A

1-2 バスドラムのセッティング

● 角度と長さの調整

バスドラムの脚棒は、パーツボックスに同梱されています。

脚棒を脚受けに取り付け、バスドラムをセットします。

図1-2Aのように角頭ボルトを緩めると脚棒の長さが、また、T型ナットを緩めると脚棒の角度が変えられます。脚受けには目盛りが付いているので、長さを調整する際、参考にしてください。T型ナットを緩めると脚受けは回転しますので、図1-2Bのように演奏時は(A)、収納時は(B)の位置にあわせて固定してください。脚棒の長さは左右均等になるように注意し、バスドラムのフロント側フープの底面と、床の間に手のひらが入る程度にするとヌケの良い音を得られます。

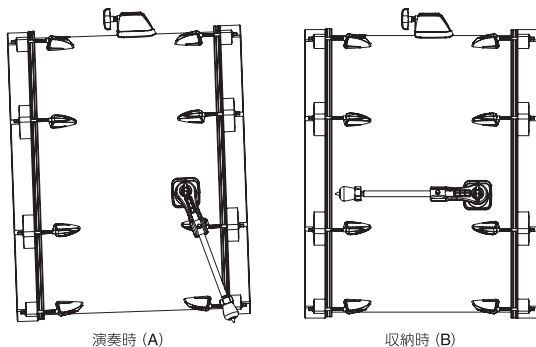


図1-2B

● スパイクの調整

図1-2Aのように、脚ゴムと剣先が選択できます。床の状態にあわせて調整して下さい。ロックナットを締めると脚ゴムの位置を固定できます。カーペット等を敷いた場所では剣先を出した方が、硬い床の場合は剣先を出さず脚ゴムを使った方が演奏中の滑りを防ぐ事ができます。

注意

* ドラムセッティングカーペットやマットを使用した場合でも、バスドラムのスパイク(剣先)を出してセッティング、演奏をするとマットの下の床面を傷つけます。床を傷つけてはいけない場所で演奏するときは、バスドラムの脚ゴムから剣先が出ないように注意してください。

2. ドラムペダルの組み立てと調整

ドラムペダルを組み立て、バスドラムに取り付けます。

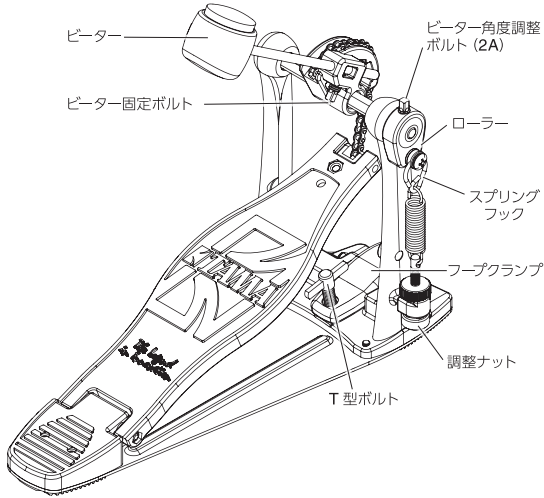


図2-1

● ドラムペダルの組み立て

スプリングフックを図2-1のようにローラーに掛けます。

● ビーターの取り付け

ビーターを図2-1のように取り付け、ビーター固定ボルトを締めて固定します。

ビーターの長さはバスドラムヘッドの中心か、やや上に当たるように調整して下さい。

また、ビーターシャフトごと回転させることで、スタンダードなフェルト面と、アタックを強調したパワフルなサウンドの樹脂面を選択可能なデュアル・サイド・ビーターを採用しています。お好みに応じて使い分けください。

● スプリングテンションの調整

スプリングテンションを調整することによって、ペダルの踏み心地を調整することができます。図2-2のように、まずロックナットを緩めた状態でそのまま押し下げると、下方にある調整ナットを回転させることが可能になります。お好みのスプリングテンションが得られるところまで調整し、好みのテンションが決まったらロックナットを再び締めてください。

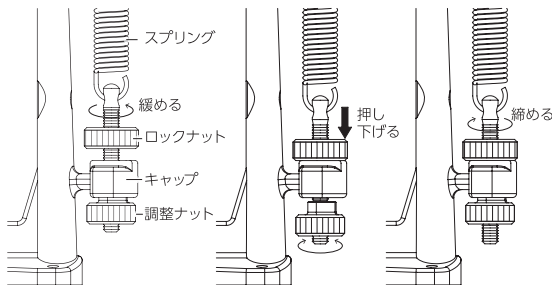


図2-2

● ビーター角度の調整

チューニングキーを使って図2-3に示すビーター角度調整ボルト(2A)を緩めると、ビーター角度とフットボードの角度を連動して調整できます。好みの角度がきまったら調整ボルトをしっかりと締め固定します。

調整ボルトをよりしっかりと締め付けたい、あるいは固くて緩まない場合は、TAMA ドラムハンマー (DH7) 等のL型キーレンチをご使用ください。

● ペダルの取り付け

フープクランプでバスドラムフープを挟むようにして、ペダルをバスドラムに固定します。演奏中の緩みを防ぐためにフープクランプのT型ボルトはしっかりと締めてください。

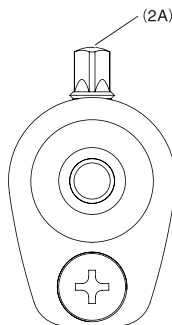


図2-3

3. ドラムスローンのセッティング

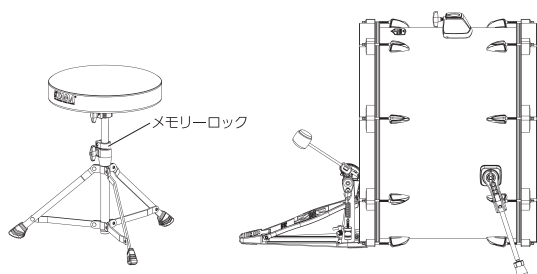


図3

ドラムスローンの脚部とシート部を組み合わせてセットします(図3)。三脚部は座ったときに安定するよう十分に開いてセットします。高さは座ったときに膝が直角に曲がる程度が一般的ですが好みに合わせて調整して下さい。また演奏中にスローンが下がるのを防ぐために、上段パイプにあるメモリーロックを、チューニングキーを使ってしっかりと締めて固定してください。

注意

* ドラムスローンはセットの種類によって別売りとなるものがあります。

高さ調整を行う場合は、スローンから降りて確実に行ってください。

4. スネアスタンドとスネアのセッティング

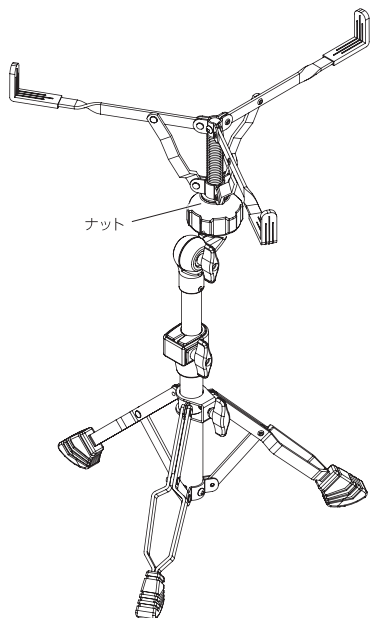


図4

● スネアスタンドの組み立て

図4のように脚部に上段部(スネアバスケット)を挿入してスネアスタンドを組み立てます。ナットはバスケット部の開き具合を調整するためのものです。ナットを回転させることでバスケットの開き具合を調整できますので、まずはバスケットを十分に開いた状態でスネアドラムを載せます。この際、バスケットの3本のアームが、スネアドラムのスイッチ、テンションロッドに干渉しないようなポジションになるように調整してください。その後、調整ナットを回転させてバスケットを閉じ、スネアドラムを固定します。その際、スネアドラムのサウンドに影響を与えない範囲で調整し、あまり強く締めこまないように注意します。

スネアドラムをセットしたら、高さや打面の角度を好みに応じて調整して下さい。スネアドラムの位置は、ドラムスローンに座ったときに体の正面になる位置が基本です。

5. タムホルダー、タムタムのセッティング

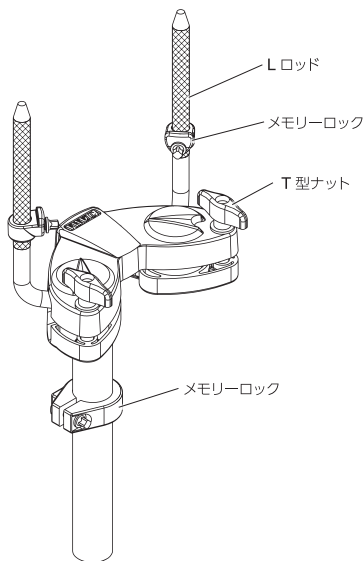


図5

タムホルダーをバスドラムのタムホルダーベースに挿入し、タムホルダーベース側のT型ボルトを締めて固定します。次にタムタム(小)を演奏者側から見て左手の、タムタム(大)を演奏者側から見て右手側のLロッドに固定します。タムタムのブラケットをLロッドに通し、メモリーロックの位置で、タムタムのブラケットのT型ナットを締めて固定します。タムタムの高さを調整したい場合は、まずメモリーロックの角頭ボルトを緩め、Lロッド上でタムタムの位置を調整するか、タムホルダー自体を上下に動かします。好みの位置にセットできたら、メモリーロックの角頭ボルトをドラムキーで締め付けて固定します。タムタムの角度はT型ナットを緩めることで調整します。

注意

- *タムタムの角度を調整する際には、必ず片手でタムタムをしっかり支えながら、もう一方の手でT型ナットを緩めて調整してください。しっかりと片手で支えないと、急にタムタムが傾き指を挟む事故や、バスドラムの天面に傷をつける恐れがあります。
- *長期間の使用などの要因により、T型ナットをしっかり締めてもタムの角度が変わってしまう(ボールロッドの固定力が低下したと感じられた)際には、市販のグリスを使用することで固定力が回復することがあります。ロッドからタムを取り外し、T型ナットを緩めてからボルト部分に少量のグリスアップを行ってください。

6. フロアタムの組み立てとセッティング

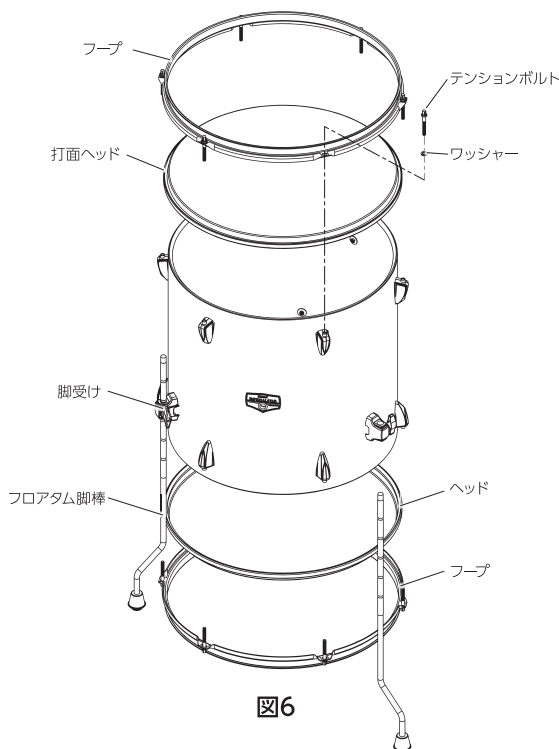


図6

● フロアタムの組み立て

まず、フロアタムのシェルにテンションボルトで固定されているフープ2本を取り外します。チューニングキーを使って、テンションボルトを外してください。この際、取り外したテンションボルトは、ヘッドを張る際に必要となりますので、紛失しないように保管ください。次にバスドラムと同様にヘッド、フープの順にシェルにのせてヘッドを張ります(図6)。打面と裏面用の付属ヘッドは厚みが異なりますので、組み付け済みのタムタムのヘッドに印刷されたマークを見て確認してください。フロアタム用のテンションボルトは、パーツボックスに同梱されています。

● フロアタムのセッティング

三本の脚棒を脚受けに取り付けます。安定性を良くするために脚棒の曲がった部分は円周に対して直角に出るように気をつけてください。

位置決めをする際には一本の脚が自分の右足(左利きの

場合は左足)の脇にくるように置き、その脚の長さで傾き具合を調整します。高さはスネアドラムと同じか、やや低めにして少し内側に傾けるのが一般的です。

7. ハイハットスタンドの組み立てと調整

● ハイハットスタンドの組み立て (図7-1)

まず三脚部を開き、ラジアスロッドをフレームの穴に差し込んで下段部を立てます。

次にハイハット上段部のハイハットクラッチを外して、テンションロッドを上段パイプから外し、テンションロッドを下段に取り付けます。

上段パイプを下段パイプに挿入し、好みの高さで固定します。

ハイハットシンバルにハイハットクラッチを取り付けます。図7-2のようにまずクラッチの下側のナットと2つあるフェルトの片方だけを外し、シンバルの穴にクラッチを通します。次に、取り外したフェルト、ナットを二枚のフェルトの間にシンバルを挟むようにして固定します。

また、ロックナットの位置を調整することによってクラッチに対するシンバルの締め具合を調整できます。

ボトム側のシンバルの穴にテンションロッドを通し、ハイハットボトムのフェルトの上に置きます。そして、クラッチを取り付けたトップ側のシンバルをロッドに通し、クラッチ側面のT型ボルトを締めて固定します。ペダルを踏み込んでいない状態で上下のシンバルの間隔が3cm～5cm開くようにセットするのが一般的です。

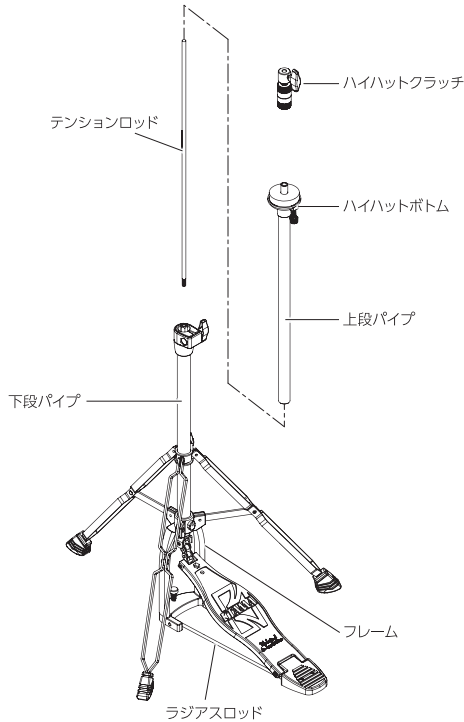


図7-1

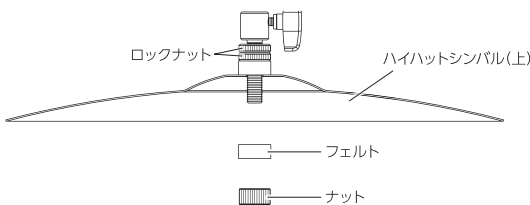


図7-2

8. シンバルスタンドの組み立て

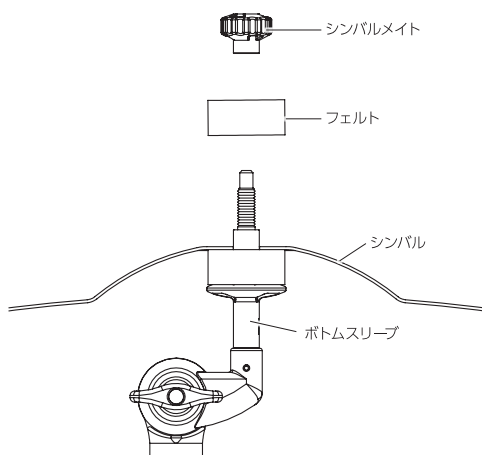


図8-1

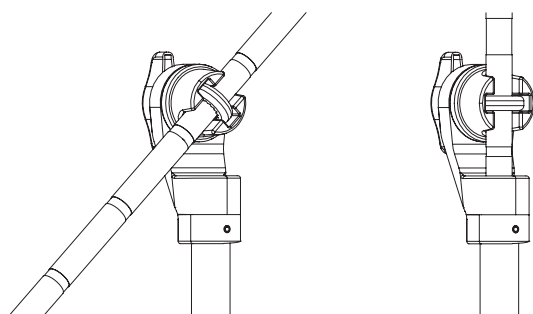


図8-2

三脚部を開き下段部を立てた後、中段、上段を挿入し組み立てます。シンバルは図8-1のように上部のティルターの二枚のフェルトに挟むようにセットします。また、boomシンバルスタンドには図8-2のようにストレートスタンドとしても使える "コンバーティブル・ティルター" を採用しており、boomアームを上段パイプの中に収納できる設計です。

注意

- * TAMAではシンバルの保護を第一に考え、樹脂製のシンバルメイトやボトムスリーブを使用しています。これらのシンバルに直接触れる部分は摩耗しますので、シンバルへのダメージを防ぐために時々点検してください。ボトムスリーブは上下にスリーブがあり、片方が摩耗し切れた際には応急的に裏側が使える設計になっています。
- * boomスタンドはお買い上げのドラムセットに含まれていない場合があります。

9. ドラムセットとスタンドの位置調整

最後に目次ページのドラムセットのイメージを参考にし、それぞれのスタンドを設置し、必要に応じて各楽器の高さ、角度を調整してください。好みのポジションが見つかったら、各部のT型ボルト、T型ナットの緩みが無いかご確認ください。

長年使用されたパーツが破損しましたら交換する事が可能です。

TAMAの公式ホームページ (<https://www.tama.com/jp/>) にて、パーツカタログをご用意しております。

この組み立て説明書は2022年1月現在のものです。製品改良の為、予告なく仕様を変更する事がありますので、あらかじめご了承ください。

TSIMP22A

 **TAMA**®